

「超音波診断」第2版

日本超音波医学会 編

東京工業大学名誉教授

森 榮 司

超音波の波動を用いて人体の診断を行う超音波診断法は、X線診断法とならび臨床の多くの分野で不可欠の手段として成長、発展している。

1988年に日本超音波医学会の学識経験豊富な会員諸氏の執筆による「超音波診断」第1版が刊行され、臨床諸家、医学生、診断装置関係研究者、技術者、そのほか超音波医学に関心のある方々に好適の勉強書として大きな貢献を果たしてきた。

しかし、刊行後わずか数年の間にも、エレクトロニクスの進歩による超音波画像情報処理技術の発達が目覚ましく、超音波診断装置の性能が著しく向上した結果、診断の精度の向上、新しい診断法の開発と実用化、新しい臨床分野への進出など、超音波診断法は限らない前進と発展を遂げつつある。

このような背景のもとに、最新の進歩を大幅に取り入れて記述内容を豊富にするとともに、新分野を追加

掲載した「超音波診断」第2版が刊行されるに至った。

本書は10の項目と付録から構成されている。

1章は超音波診断の基礎、2章は中枢神経系・眼科・耳鼻科・歯科領域、3章は体表臓器領域、4章は循環器領域、5章は呼吸器領域、6章は腹部領域、7章は泌尿器領域、8章は産婦人科領域と第1版と同じ項目が並んでいるが、各領域とも最新の知見を盛り込んだ記述を随所に取り入れるとともに、最近著しい進歩を遂げつつある超音波カラー Doppler 法を大幅に収録し、第1版に比べて内容がより充実している。また、最新の重要な文献を追加掲載して読者の便宜を図っている。

9章の整形外科領域、10章の皮膚科領域は第2版で新しく追加されたもので、本書を更に特徴あるものになっている。

付録には、第1版同様に学会制定

の医用超音波用語、超音波断層像の表示方法、超音波診断基準が掲載されている。

筆者は超音波パワーの基礎と応用の研究者で、超音波診断については門外漢に近い者であるが、今回第2版を通読する機会を与えられ、超音波診断の現状を認識するとともに、予想を越えた大きな発展を遂げ、臨床上必須の武器となっている現実に触れ、心から感動を覚えた次第である。

本書は、日夜臨床の現場で奮闘している医家、医学生、診断装置関係の研究者、技術者のみならず、超音波医学に関心のある多くの方々が座右において愛読、利用されるのにふさわしい著書であると確信し、お勧めする次第である。

● B5 992頁 図449 写真1,162
原色図167 1994 定価22,660円
(税込み) 円600

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)